

ひとを育てる活動

—チボリの子ども支援—

SCMSI 校、2015 年度児童・生徒数

6月15日に入学、進級受付を終了した SCMSI から、以下のように、本年度各学校の児童、生徒数の報告がありました。

* 小学校: ベネツ(124)、ラヒット(147)レムエヘック(243)

* ハイスクール: デコロン(797)、レムエヘック(469)

* カレッジ: 地域開発科(616)、新設の初等教育科(35)

小学校、ハイスクールは前年度とほぼ同じですが、カレッジは、初等教育科の新設に加えて、地域開発科も 63 人増えて、合計、98 名増となりました。

これに対して、私たちの里子支援、および教師給与等の SCMSI 運営支援は、円安やチボリ支援会員の減少で、前年より、2 万ペソ減額の月額 10 万ペソと決めて、すでに1月のうちに、覚書を更新しました。

支援を待つチボリ里子候補から

町の中心部から遠いラヒット小には、支援が必要な子どもがまだ多数いて、今回 18 名のデータが届きました。新たに支援会員になって下さる方を募集しています。現里子については 9 月頃現況報告をお届けします。



ジェネロッセ・ボンゴン。
八歳。三年生。六人兄弟の
二番目。父親は農業。



ギルバート・サナン。六歳。
一年生。六人兄弟末子。父親
は乗合バイクドライバー。

SCMSI カレッジの現況から — 初等教育科新設と、急がれる教室不足対策 —

前号でも触れましたように、近年、SCMSI 卒業生の選択として、地域開発科だけの SCMSI カレッジへの内部進学よりも、近隣の公立、私立大学への入学希望が増えていて(今年 3 月卒業の里子の場合、15 名中 10 名)、その中には、教師をめざして、初等教育科を専攻するものもかなりいます。

山岳部の初等教育については、古くは教員免許がなくても教師になれました。識字率向上が優先されたためですが、法改正により、今は SCMSI 校教師もすべて免許が必要です。SCMSI では、近隣の総合大学の協力による集中講義等により、とりあえず、学内で教職単位を取得できるようにしました。それでも、外部大学を選択するのは、給与が高い公立校就職に必須の教師国家試験(LET)合格率の違いではないかと推測されます。

教職課程進学のニーズに応えるため、この 2015 年 6 月、初等教育科の新設が決まり、上欄のように、1 期生として 35 名が入学しました。すでに、お伝えのように、ハイスクール、カレッジ部門があるメインセンターの教室不足、未整備問題は長年の懸案事項で、私たちも、昨年 10 月には、助成金申請による床下 4 教室分の間仕切り、壁建設の支援を試みました。緊急性が低いと判断されたのか、3 月末の助成機関からの回答は不可でした。

単位当たり授業料が安い(私立平均 250 ペソに対して SCMSI は 150 ペソ)上に、レイクセブ唯一の高等教育機関ということもあり、入学希望者は増え続けています。とりあえず、不足している椅子だけでもと、今年は 5 万ペソ(約 14 万円)を教育事業予算に計上し、5 月のうちに送金させていただきました。

床下の 2 教室に、間仕切りと壁ができることになりました!

— 学習環境の飛躍的な改善に期待 —

6 月の現地訪問を控えたある日、元 JOFPA 会員で、今も里子支援を続けて下さっている熊本の O さんから、亡くなった奥様のためにご寄付をというお申し出をいただきました。O さんには、20 年以上前、若くして支部長さんをされていた時にお目にかかったことがあります。

お二人でともに支えて下さったチボリの子どものために使わせていただきたいと、レイクセブ地区のパートナー、SCMSI や COWHED に急ぎニーズを確認しました。

帰国後、O さんのご意向も伺った上で、SCMSI の床下教室 2 教室分の間仕切り、壁建設支援に決めさせていただきました。2-3 ヶ月で完成の予定で、新設の初等教育科の教室にあてられるそうです。



隣の教室との仕切りは黒板のみで、間仕切り、壁のない床下教室。

SCMSI カレッジ生、数学の授業風景

(2014 年 11 月訪問時撮影)